

第 86 期

証券コード9671

株式会社 よみうりランド

報告書

H21・04・01 ▶ H22・03・31

Contents

- 株主の皆様へ/01
- 営業の概況/01・02
- 事業の種類別セグメントの概況/03・04
- 財務諸表〔連結〕/05・06
- 業績ハイライト〔連結〕/07
- トピックス/08
- 株主優待/09
- 株式の状況/10
- 会社の概況/10
- 株主メモ



よみうりランドキャラクター
ランドドッグ

遊園地(よるランド)

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当社グループ第86期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の事業の概況を取りまとめましたので、ここに本報告書をお届け申し上げます。

平成22年6月

代表取締役社長

関根達雄



営業の概況

01

事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、一部で緩やかな景気持ち直しの兆しが見られたものの、雇用・所得環境は低迷した状況が続いております。

当社グループの関連する業界におきましては、消費者の生活防衛意識や節約志向が一層高まる中、個人消費は依然停滞しており、経営環境は一段と厳しさを増しております。

このような状況の下、9月に創立60周年を迎えた当社は、遊園地でシルバーウィークに実施した「大秋祭り」や12月に初めて実施した冬季の夜間営業「よるランド」が好評を博し、売上向上に寄与いたしました。また、京王よみうりランド駅南通路「よみうりV通り」の開通や読売巨人軍の新室内練習場の竣工など所有地の有効活用を推進するとともに、11月には温浴施設「稲城天然温泉 季乃彩（ときのいろどり）」の事業を買収し、経営基盤の強化を図りました。競輪場外車券売場「サテライト船橋」は、オープンして1年が経過しましたが、順調に稼動し、引き続き増収に寄与しております。

この結果、当連結会計年度における売上高は145億4千6百万円（前期比3.5%増）、営業利益は20億5千7百万円（同13.4%増）、経常利益は21億1千6百万円（同9.9%増）、当期純利益は、特別損失の計上が前期より少なかったことなどにより、11億5千2百万円（同32.4%増）となりました。

対処すべき課題

今後のわが国経済は、緩やかな持ち直し傾向が見られるものの、雇用や所得に対する不安から引き続き厳しい環境が続くものと予想されます。

当社グループの関連する業界におきましても、雇用情勢の悪化や所得の伸び悩みを反映し個人消費が冷え込むなど、先行き不透明な状況が続くものと予想され、こういった経営環境に柔軟に対応するためにも、安全面には万全な配慮しつつ、業務の効率化を徹底していくとともに、ビジネスモデルの転換が必要な際には機敏に対応できるよう準備を進めることが重要と考えております。

このような状況の下、公営競技部門では、船橋競馬場で、本年11月にダート競馬の祭典「JBC競走」の開催を予定しております。当開催をきっかけとした新規ファンの獲得を図るべく、施設整備、ファンサービスの提供を進めてまいります。

ゴルフ部門では、千葉よみうりカントリークラブにおいて、東京よみうりカントリークラブ名物の18番ショートホールを再現した新18番ホールの整備を進めております。本年10月からの使用開始を予定しており、名物ホールの知名度を生かした集客施策を図ってまいります。

遊園地部門では、遊園地の夜間営業「よるランド」が好評を博したことを受け、その定着化と発展を図ってまいります。また、温浴事業においては、新たに事業を買収した「季乃彩」と既存施設「丘の湯」との相乗効果が発揮される営業施策を講じてまいります。

また、「よみうりV通り」開通により、遊園地とその周辺の発展的開発に向けたインフラが整備されたことに伴い、新たな事業展開を推進してまいります。なお、平成22年度に読売巨人軍旧室内練習場跡地で開業を予定しておりました住宅展示場につきましては、住宅業界不振の影響などにより、事業計画を中止したため、再度活用方法を検討してまいります。

今後とも当社グループは、国内でも特色のある総合レジャー・サービス事業会社として、永年に亘り培われたノウハウとブランドイメージに裏打ちされた様々な経営資源に基づき、持続的な企業価値の向上を目指し成長、進化していく所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

事業の種類別セグメントの概況

総合レジャー事業

公営競技部門

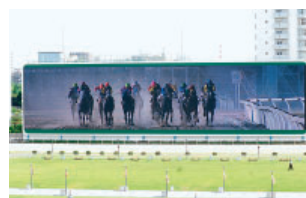
川崎競馬は、前期と同じく64日開催されました。6月の本場開催より世界最大規模の大型映像装置「川崎ドリームビジョン」の運用が開始され、迫力あるレース映像や多彩な情報が提供されるようになりました。7月の重賞「スパーキングレディカップ」や12月にセミナイターで開催した「全日本2歳優駿」は盛り上がりを見せました。しかしながら、投票券総売上高は、一人当たりの購買金額が落ち込んだことなどにより、減少いたしました。

船橋競馬は、前期と同じく54日開催されました。ゴールデンウィークに行われたビッグレース「かしわ記念」の投票券売上高が船橋競馬の1レースでの売上レコードを更新するなど活況を呈しました。また、当社が運営している特別観覧席では、様々なイベントを実施しファンサービスに努めました。しかしながら、投票券総売上高は、川崎競馬同様一人当たりの購買金額が落ち込んだことなどにより、減少いたしました。

船橋オートレースは、前期比5日増の74日開催されました。なかでも年末には、オートレース最大のビッグレース「スーパースターフェスタ2009」が船橋で初めて開催され、投票窓口や特設売店の増設など、受入体制を強化したことにより、盛り上がりを見せました。一人当たりの購買金額は落ち込んだものの、開催日数の増加により投票券総売上高は増加いたしました。

競輪場外車券売場「サテライト船橋」での発売は、356日実施されました。12月に開設1周年を記念し、選手トークショーをはじめ様々なイベントによりファンサービスを実施いたしました。また、ナイター発売が好調だったことや年末の競輪グランプリの売上も前年を大きく上回り、投票券売上高は順調に推移しております。

以上の結果、公営競技部門の売上高は、「サテライト船橋」の通年稼動もあり、39億5千6百万円（前期比10.6%増）となりました。



▲川崎ドリームビジョン（川崎競馬場）

ゴルフ部門

東京よみうりカントリークラブは、引き続きチャンピオンコースとしてのコース維持に努めました。報知アマゴルフ選手権の誘致や当社創立60周年記念会員ポイントキャンペーンなどを実施し、来場促進を図りました。また、12月に開催された「ゴルフ日本シリーズJTカップ」では、賞金争いなど話題性もあり、前年を上回る盛り上がりを見せました。よみうりゴルフ倶楽部は、9月に女子プロ参加の新規プロアマコンペを、また大晦日にはカウントダウンコンペを開催するなど各種コンペを実施し顧客サービスに努めました。しかしながら、両ゴルフ場ともに、経済不況の影響が大きく、入場者は減少いたしました。

静岡よみうりカントリークラブは、10月に乗用カートのリニューアルし、コースナビゲーションシステムを搭載したほか、ワンオンチャレンジなどのイベントを実施し、顧客サービスの向上を図りました。しかしながら、開場以来最高の入場者水準であった前期には及ばず、入場者は減少いたしました。

千葉よみうりカントリークラブは、4月より乗用カートにコースナビゲーションシステムを導入し、顧客サービスの向上に努めました。また、賞品が当たるスクラッチカードや祝日に49歳以下への割引料金サービスを実施したことが功を奏したほか、平日の1組セット料金「F割」利用の増加もあり、悪天候によるクローズが3日あったにもかかわらず、入場者は増加いたしました。

以上の結果、ゴルフ部門の売上高は30億6千6百万円（前期比5.6%減）となりました。



▲ゴルフ日本シリーズJTカップ2009
（東京よみうりカントリークラブ・12月3～6日）

遊園地部門

遊園地は、9月のシルバーウィークに実施した当社創立60周年記念イベント「大秋祭り」や12月に初めて実施した冬季の夜間営業「よるランド」が集客に大きく寄与したほか、「オープンシアターEAST」を活用したアイドルイベントなども好評を博しました。また、「レーザーアスレチック」や「アニマルレスキュー」などの新規アトラクションの導入を積極的に実施いたしました。その結果、新型インフルエンザの影響による団体客のキャンセルや、ゴールデンウィークの天候不順はあったものの、入園者は大幅に増加いたしました。

夏のプールWAIは、おもちゃのアヒルを用いたレース大会、シンクロショー、音楽イベントなどを実施し、リピーターの獲得と顧客満足度の向上を図りました。また、営業期間全体を通して冷夏傾向であったことへの対策として、お盆明けから、14時以降の入場料を半額にするキャンペーンを実施するなど集客に努めました。また、入場者は減少いたしました。

温浴施設「丘の湯」は、回数券の販売促進や各種イベントを実施したほか、遊園地の「よるランド」との連携など集客を図ったことにより、前期並みの入場者を確保いたしました。また、温浴施設「季乃彩」は、事業獲得後も宣伝広告効果などにより入場者は順調に推移しており、今後も既存施設とのシナジー効果の発揮に努めてまいります。

ゴルフガーデン（練習場）は、平日打ち放題など各種イベントが好評だったことにゴルフ人気も相俟って入場者は増加いたしました。

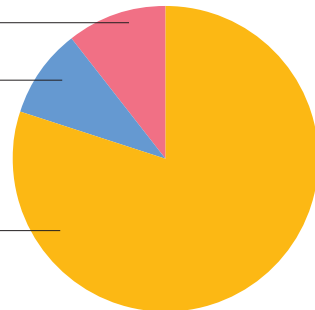
以上の結果、遊園地部門の売上高は24億6百万円（前期比15.4%増）となりました。



▲創立60周年記念「大秋祭り」
(オープンシアターEAST・9月19日)

販売部門

遊園地が入園者増に伴い増収となったほか、温浴施設「季乃彩」からの収入が加わったものの、入場者の減少したその他の施設が低調であったため、販売部門の売上高は24億8千万円（前期比1.0%減）となりました。



● 総合レジャー事業

総合レジャー事業全体の売上高は、その他の収入も含め、125億8千5百万円（前期比4.6%増）、営業利益は25億1千1百万円（同10.5%増）となりました。

売上高 **12,585**百万円
構成比 **80.2%**

● 不動産事業

販売用宅地の分譲は増加したものの、シニア施設の賃貸における保証金償却益の計上が前期で終了したことにより、不動産事業全体の売上高は14億6千万円（前期比3.4%減）となり、営業利益は、前期に一時的に増加した費用が今期は発生しなかったため、8億5千4百万円（同5.3%増）となりました。

売上高 **1,460**百万円
構成比 **9.3%**

● 建設事業

メンテナンス関連業務が新規受注で増加したものの、工事の受注が減少したことなどにより、建設事業全体の売上高は16億4千4百万円（前期比6.1%減）、営業利益は6千4百万円（同14.7%減）となりました。

売上高 **1,644**百万円
構成比 **10.5%**

財務諸表〔連結〕

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度末 平成22年3月31日現在	前連結会計年度末 平成21年3月31日現在	比較増減
(資産の部)			
流 動 資 産	7,523	6,186	1,337
現金及び預金	5,960	4,089	1,870
受取手形及び売掛金	965	1,283	△ 318
商 品	24	25	△ 0
販売用不動産	255	287	△ 31
未成工事支出金	7	20	△ 13
貯 蔵 品	11	15	△ 4
繰延税金資産	188	152	35
そ の 他	111	312	△ 200
貸倒引当金	△ 0	△ 1	0
固 定 資 産	46,884	43,966	2,917
有形固定資産	38,169	37,181	988
建物及び構築物	19,382	17,202	2,179
機械装置及び運搬具	550	508	42
工具、器具及び備品	307	330	△ 22
土 地	17,752	17,493	258
リ ー ス 資 産	118	7	111
建設仮勘定	58	1,639	△ 1,580
無形固定資産	89	78	11
そ の 他	89	78	11
投資その他の資産	8,625	6,706	1,918
投資有価証券	7,823	5,861	1,961
繰延税金資産	542	546	△ 4
そ の 他	259	298	△ 39
資 産 合 計	54,408	50,152	4,255

科 目	当連結会計年度末 平成22年3月31日現在	前連結会計年度末 平成21年3月31日現在	比較増減
(負債の部)			
流 動 負 債	6,616	6,464	151
営業未払金	409	397	11
短期借入金	3,100	3,100	—
1年内返済予定の長期借入金	1,302	1,095	207
未払法人税等	402	411	△ 9
賞与引当金	120	119	1
そ の 他	1,281	1,340	△ 59
固 定 負 債	30,234	28,039	2,194
長期借入金	4,493	3,045	1,447
繰延税金負債	1,120	244	876
退職給付引当金	579	608	△ 29
役員退職慰労引当金	125	106	19
長期預り金	23,807	24,027	△ 220
そ の 他	108	6	101
負 債 合 計	36,850	34,503	2,346
(純資産の部)			
株 主 資 本	16,318	15,574	744
資 本 金	6,053	6,053	—
資 本 剰 余 金	4,730	4,730	△ 0
利 益 剰 余 金	6,844	6,097	747
自 己 株 式	△ 1,309	△ 1,307	△ 2
評価・換算差額等	1,238	67	1,171
その他有価証券評価差額金	1,238	67	1,171
少 数 株 主 持 分	—	7	△ 7
純 資 産 合 計	17,557	15,649	1,908
負債及び純資産合計	54,408	50,152	4,255

Consolidated Financial Statements

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	比較増減
売上高	14,546	14,049	496
売上原価	10,947	10,719	228
売上総利益	3,598	3,330	268
販売費及び一般管理費	1,540	1,515	25
営業利益	2,057	1,814	243
営業外収益	161	207	△ 46
受取利息	3	13	△ 10
受取配当金	114	126	△ 12
保険返戻金	0	23	△ 22
その他	43	44	△ 1
営業外費用	102	95	6
支払利息	101	94	6
その他	0	0	0
経常利益	2,116	1,926	190
特別利益	5	60	△ 54
固定資産売却益	0	38	△ 38
受取保険金	—	21	△ 21
子会社清算益	5	—	5
特別損失	210	498	△ 288
固定資産除却損	199	329	△ 129
固定資産売却損	—	0	△ 0
固定資産臨時償却費	—	152	△ 152
投資有価証券評価損	0	14	△ 14
災害による損失	10	2	7
匿名組合損益分配前 税金等調整前当期純利益	1,912	1,488	423
匿名組合損益分配額	—	68	△ 68
税金等調整前当期純利益	1,912	1,419	492
法人税、住民税及び事業税	704	709	△ 4
法人税等調整額	54	△ 160	215
少数株主利益	—	0	△ 0
当期純利益	1,152	870	281

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,579	△ 653
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,822	△ 2,171
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,238	329
現金及び現金同等物の増減額	1,995	△ 2,496
現金及び現金同等物の期首残高	3,989	6,485
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 165	—
現金及び現金同等物の期末残高	5,820	3,989

連結株主資本等変動計算書

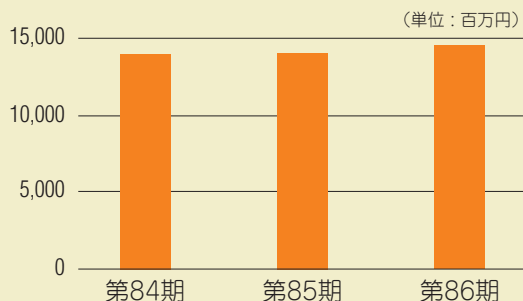
当連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）

(単位：百万円)

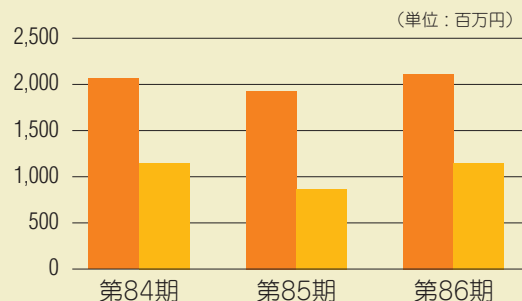
	株主資本				
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計
平成21年3月31日残高	6,053	4,730	6,097	△ 1,307	15,574
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△ 399		△ 399
当期純利益			1,152		1,152
連結範囲の変動			△ 5		△ 5
自己株式の取得				△ 3	△ 3
自己株式の処分		△ 0		0	0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	0	747	△ 2	744
平成22年3月31日残高	6,053	4,730	6,844	△ 1,309	16,318
	評価・換算差額等		少数株主 持分	純資産 合計	
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計			
平成21年3月31日残高	67	67	7	15,649	
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当				△ 399	
当期純利益				1,152	
連結範囲の変動				△ 5	
自己株式の取得				△ 3	
自己株式の処分				0	
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	1,171	1,171	△ 7	1,163	
連結会計年度中の変動額合計	1,171	1,171	△ 7	1,908	
平成22年3月31日残高	1,238	1,238	—	17,557	

業績ハイライト[連結]

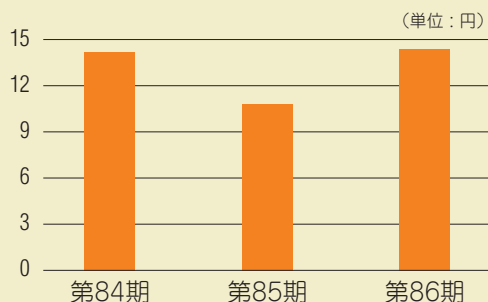
● 売上高



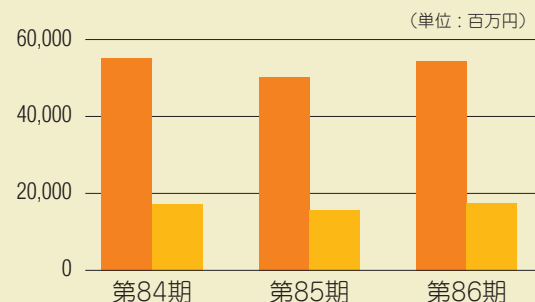
● 経常利益／当期純利益



● 1株当たり当期純利益



● 総資産／純資産



07

科 目	第84期 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	第85期 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	第86期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
売上高 (百万円)	13,993	14,049	14,546
経常利益 (百万円)	2,062	1,926	2,116
当期純利益 (百万円)	1,148	870	1,152
1株当たり当期純利益 (円)	14.16	10.80	14.41
総資産 (百万円)	55,249	50,152	54,408
純資産 (百万円)	17,162	15,649	17,557

トピックス

①「よみうりV通り」「読売巨人軍新室内練習場」完成

平成21年9月17日、京王よみうりランド駅南通路「よみうりV通り」と読売巨人軍新室内練習場が竣工を迎えました。よみうりV通り開通により遊園地周辺の発展的開発に向けたインフラが整備されました。歩道部分には、2009年読売巨人軍選手手形名鑑が設置されています。



▲よみうりV通り



▲原監督の手形



▲読売巨人軍新室内練習場

②遊園地の新しい遊戯機！

「レーザーアスレチック～ファラオの罠～」

平成21年10月9日、日本で初めてレーザーを用いたアスレチックアトラクション「ファラオの罠」がオープンいたしました。レーザートラップを切り抜け、最高タイムを目指せ！

- 【料 金】 1回300円
- ※ワンデーパス利用可
- 【利用条件】 小学生以上



「アニマルレスキュー」

平成22年2月19日、よみうりランド初のシューティングライドアトラクション「アニマルレスキュー」がオープンいたしました。ゾープ型電動ライドに乗り込み、野生動物を救え！

- 【料 金】 1回600円
- ※ワンデーパス・ひよこパス利用可
- 【利用条件】 5歳未満要付添

③温浴施設「稲城天然温泉 季乃彩」
事業買収

平成21年11月26日、東京都稲城市所在の温浴施設事業「季乃彩」を譲り受けました。これにより、近接する既存温浴施設との一体的運用が可能となり、相乗効果が発揮される事業展開を図ってまいります。



▲季乃彩 入館口

【入館料】

- 【大人】 平日 700円 土日祝 900円
- 【小人】 平日 400円 土日祝 600円

電 話：042-370-2614

U R L：http://www.tokinoirodori.com/

株主優待

当社では、権利確定日に株主名簿に記録されている株主様を対象として、株主ご優待を実施しております。

権利確定日	3月31日（期末）	9月30日（中間）
発行時期	6月	12月
有効期間	7～12月	1～6月

●招待内容

遊園地・プールWAI招待券綴	株主入場パス
1冊の内容	各場共通パス
★遊園地入園 5枚	☆川崎競馬場
★のりもの・アシカショー券引換 1枚 園内で「のりもの3回、アシカショー1回」がセットになったクーポン券5枚とお引き換えいたします。	☆船橋競馬場
★ゴンドラ乗車 2枚（10回分）	☆船橋オートレース場
★プールWAI入場 5枚（※期末発行分のみ）	

●発行基準

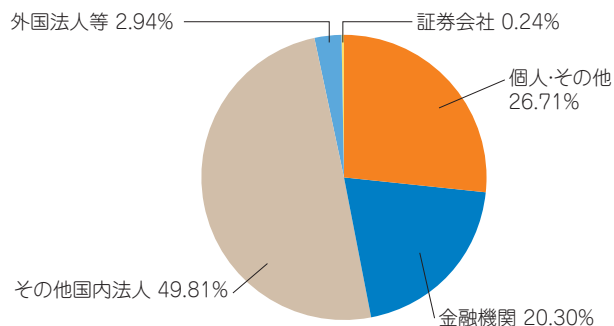
ご所有株数	遊園地・プールWAI招待券綴	株主入場パス
1,000株未満	—	1枚
1,000株以上	1冊	2枚
5,000株以上	2冊	3枚
10,000株以上	3冊	5枚
50,000株以上	4冊	5枚

※各招待券は休園日等ご利用いただけない日がございます。注意事項と合わせて詳細につきましては、同封の「株主招待券贈呈のご案内」をご参照ください。

※プールWAI入場につきましては、期末発行分のみとなります。

株式の状況 (平成22年3月31日現在)

- 発行可能株式総数…………… 294,196,000株
- 発行済株式総数……………79,968,695株
(自己株式3,553,329株を除く)
- 当期末株主数…………… 8,113名
- 所有者別株主比率



●大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社読売新聞グループ本社	12,508	15.64
日本テレビ放送網株式会社	11,242	14.05
株式会社東京ドーム	5,821	7.27
中央三井信託銀行株式会社	3,973	4.96
大成建設株式会社	2,852	3.56
株式会社読売巨人軍	2,014	2.51
第一生命保険株式会社	2,000	2.50
京王電鉄株式会社	1,700	2.12
株式会社横浜銀行	1,631	2.03
オリンピア興業株式会社	1,278	1.59

(注) 1. 上記以外に当社所有の自己株式3,553千株があります。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

会社の概況

●会社の概要 (平成22年3月31日現在)

商号 株式会社よみうりランド
(英文: YOMIURI LAND CO., LTD.)
本店所在地 東京都稲城市矢野口4015番地1
設立 昭和24年9月24日
資本金 6,053,030,806円
企業集団の主要な事業内容 総合レジャー事業
公営競技部門
競馬、オートレース及び競輪の
競技場等の施設運営
ゴルフ部門
ゴルフ場の経営
遊園地部門
遊園地、ゴルフ練習場、温浴施
設等の経営
販売部門
食堂、売店及びコンビニエンス
ストアの経営
不動産事業
不動産の売買、賃貸
建設事業
建設業

●当社の従業員の状況 (平成22年3月31日現在)

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
185名	△4名	41歳6ヵ月	14年5ヵ月

●役員 (平成22年6月23日現在)

代表取締役社長…………… 関 根 達 雄
常務取締役…………… 小飯塚 稔
常務取締役…………… 土方 功
取締役最高顧問…………… 中保 章
取締役…………… 谷矢 哲夫
取締役…………… 小林 利光
取締役…………… 正力 亨
取締役…………… 渡邊 恒雄
取締役…………… 氏家 齊一郎
取締役…………… 加藤 奂
監査役(常勤)…………… 田中 敏樹
監査役…………… 濱 邦久
監査役…………… 細川 知正
監査役…………… 児玉 幸治

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年の3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日

定時株主総会の議決権	毎年3月31日
期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
- 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
- 公告の方法 電子公告により行います。なお、以下のホームページアドレスにてご覧いただけます。
<http://www.yomiuriland.co.jp/ir/index.html>
ただし、事故その他、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する読売新聞に掲載して行います。

・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

・未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

・「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受け取りの株主様につきましても、本年より配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただきます。

※確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

株式会社 よみうりランド

この報告書に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

● 総務部 電話 044-966-1131

● ホームページ <http://www.yomiuriland.co.jp/>